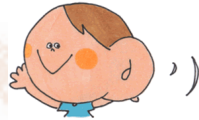




ほけんのまどから

3月3日は耳の日



子どもは大人に比べて耳管が太く短く、水平に近い為、細菌が鼻の奥から中耳に入りやすく免疫力や抵抗力が弱い事もあって中耳炎を起こしやすいです。

中耳炎は、生後半年ほどから、1~2歳をピークとして、6歳くらいまでの子どもによく見られます。風邪をひくたびに中耳炎を繰り返したりすることも少なくありません。

2月の感染症情報

- ・溶連菌 乳児1名 幼児3名
- ・ヒトメタニューモウイルス 乳児2名
- ・アデノウイルス 乳児3名



耳を守るために

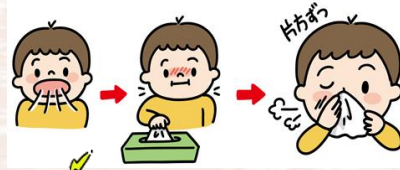
・鼻をすすらない



・耳の近くで大きな声や音をださない



鼻を噛むときは、片方ずつゆっくりと



耳をたたかない。



・乳児を寝かせたまま、ミルクを飲ませない (ミルクが耳管を通り中耳に入りやすい為。)



1歳でも花粉症になる？

子どもの花粉症に罹る率の低年齢化は進んでいて5~9歳で3人に1人がスギ花粉症を発症していると言われています。最近では少ないながらも1歳で花粉症にかかる子もいるそうです。

花粉症と風邪の違い

子どもの花粉症の特徴

症状など	花粉症	風邪
鼻水	透明 さらさら	黄色・ねばねば
くしゃみ	何度も繰り返しある	ときどき
熱	ないことが多い	微熱や高熱がでることがある
時間帯	昼から夕方症状が強くなる	時間に関係なく症状がある
天気	晴れ、風の日に症状が強くなる	天気は関係なく、症状がある

- * 目の症状がひどく出やすい。目を頻繁にこする為充血したり、目の周りの皮膚が赤くなる。
- * 子どもは鼻が小さい為、鼻詰まりが起こりやすい。鼻詰まりが起こると花粉が入ってこないため、くしゃみは出ない。
- * 鼻で呼吸できないため口を開けていることが多い。
- * 鼻がムズムズする為、こすったり掻いたりして鼻血が出やすい。
- * 大人の場合はサラサラした水のような鼻水が出るが、子どもの場合は粘り気のある鼻水も出る。

花粉症対策

キーワードは

花粉を「つけない」「おとす」

